

## 3.11と東北地域のバイオマス協力の形成

2012 年度

日本の森  
バイオマス  
ネットワーク

NPO法人日本の森・バイオマスネットワーク  
副理事長 大場 隆博

# NPO法人日本の森バイオマスネットワークとは

## ●沿革

2008年の岩手・宮城内陸地震が契機となり、震災からの復興に向けて2009年12月に宮城県栗原市のくりこま高原自然学校と栗駒木材を中心に設立。  
2011年9月にNPO法人化。

## ●理念

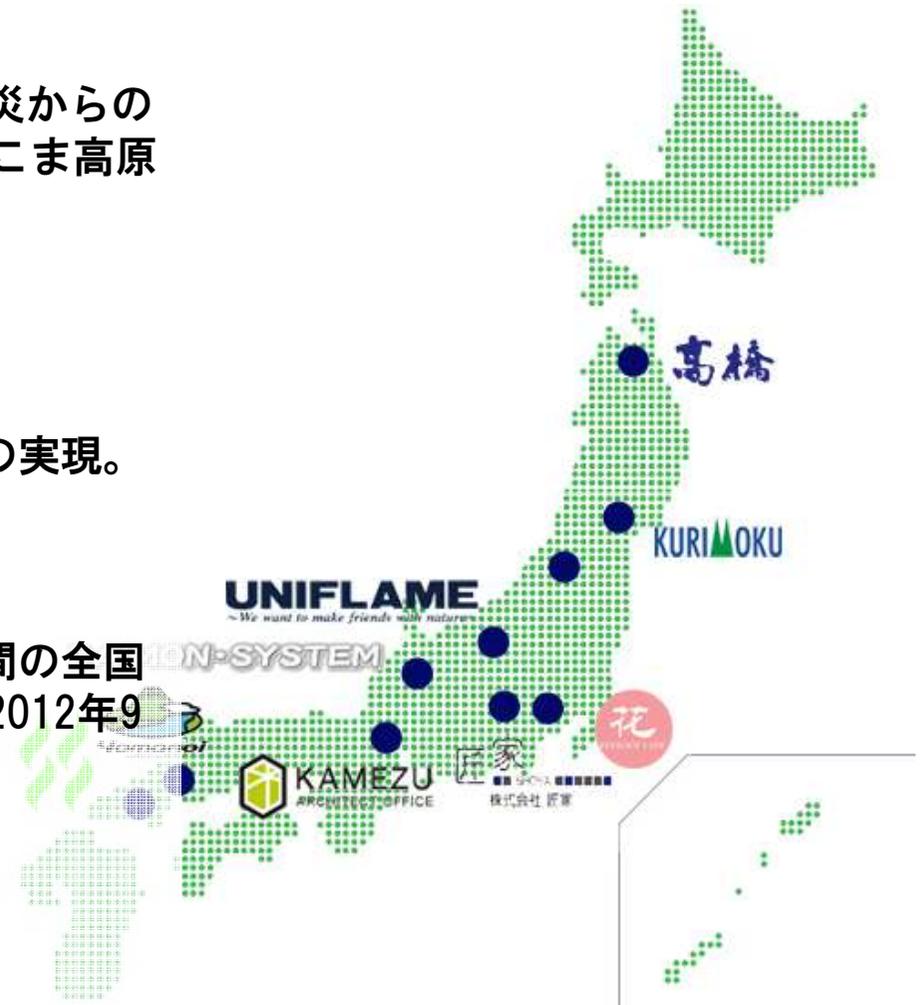
森林資源の活用促進による持続可能な地域社会の実現。

## ●組織

環境教育団体、製材所、工務店などからなる民間の全国ネットワーク組織。会員数48名、全国13支部（2012年9月現在）。

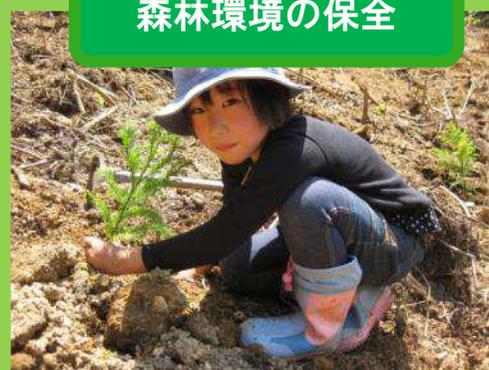
理事長：佐々木豊志（くりこま高原自然学校）

副理事長：大場 隆博（栗駒木材株式会社）



# 主な活動内容

森林環境の保全



循環型林業の推進



国産材利用の推進



森林環境教育



排出権取引



木質バイオマス燃料の普及啓発



# 会員制度について

会員種別		入会金	年会費
活動会員 ※総会での議決権有り	団体会員	1,000円	5,000円
	個人会員	1,000円	3,000円
一般会員 ※総会での議決権無し	団体会員	1,000円	1,000円
	個人会員	1,000円	1,000円

## 会員向けサービス

- ・ 各種イベントの案内
- ・ フリーペーパー「ふんわり」の送付（年4回）
- ・ メールマガジンの配信
- ・ facebook会員グループでの情報交換、交流



# 東日本大震災 緊急支援活動（2011年3月～4月）



●沿岸部の避難所に計43台のペレットストーブを設置。

●全国のペレット工場から燃料を送ってもらい、避難所に供給した。



# 復興共生住宅「手のひらに太陽の家プロジェクト」

- ・ 国産材利用、再生可能エネルギーの利用など、新しい復興のモデルとなる共生住宅プロジェクト。
- ・ 8部屋の個室と共用棟からなり、東日本大震災に被災した子どもたちを受け入れて、心身のケアやサポートを行う。
- ・ 宮城県登米市に平成24年7月に開所以降、半年で200名以上の福島の子が利用。
- ・ 将来的には環境教育やツーリズムの拠点として長期的に地域に貢献する。



# つながり・ぬくもりプロジェクトとの連携

- ・ 手のひらに太陽の家への太陽光発電、太陽熱給湯設備の提供

太陽熱給湯  
9基



太陽光発電  
7kw

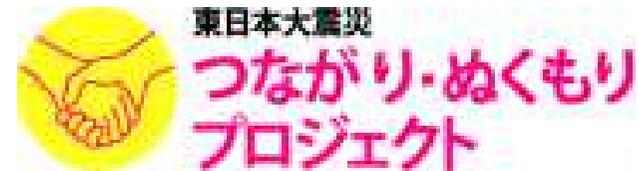
- ・ 被災地施設へのペレットストーブ設置



女川お茶っこクラブ



女川仮設住宅 アトリエ



# 支援は仕事づくりの段階へ



皆伐しない循環型の森づくり



土佐の森方式・自伐林業の推進



木材のカスケード利用促進



木を活用する暮らしの普及  
燃焼機器の導入支援



山側までお金を回る仕組みづくりを通じて  
被災地での雇用創出へ

# 木質バイオマス利用推進に向けた課題

- ・ **流通体制の整備**

運搬コストがネック。安定して供給できるのかを気にする声が圧倒的に多い。

- ・ **放射能の問題**

安全に使ってもらうための仕組みづくりと安心して使ってもらうための情報公開。低線量被ばくの影響に関する知見がまだ不十分。

- ・ **バイオマスに関する正しい知識の欠如**

イメージ先行のバイオマス発電や地域を搾取しかねない補助金事業。

いずれも様々な団体と連携して取り組んでいくべき課題